

ウ 地域の安全

生活				社会						
イ 安全				ウ 地域の安全						
小学部 1段階		小学部 2段階		小学部 3段階		中学部 1段階		中学部 2段階		
危険なことや危険な場所等における安全に関わる初歩的な学習活動		道具や器具の使い方、避難訓練等の基本的な安全や防災に関わる学習活動		交通安全や避難訓練等の安全や防災に関わる学習活動		(7) 地域の安全に関わる学習活動		2段階では、「地域」を1段階で学ぶ自分が住んでいる市に加え、自分の住んでいる県までを範囲とする		
思考表	(7) 身の回りの安全に気付き、教師と一緒に安全な生活に取り組もうとすること。	(7) 身近な生活の安全に関心を持ち、教師の援助を求めながら、安全な生活に取り組もうとすること。	(7) 日常生活の安全や防災に関心を持ち、安全な生活をするよう心がけること。			⑦地域の安全を守るため、関係機関が地域の人々と協力していることが分かること。		⑦地域の関係機関や人々は、過去に発生した地域の自然災害や事故に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。		
知技	(4) 安全に関わる初歩的な知識や技能を身に付けること。	(4) 安全や防災に関わる基礎的な知識や技能を身に付けること。	(4) 安全や防災に関わる知識や技能を身に付けること。			⑧地域における災害や事故に対する施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、そこに携わる人々の働きを考え、表現すること。		⑧過去に発生した地域の自然災害や事故、関係機関の協力などに着目して、危険から人々を守る活動と働きを考え、表現すること。		
【 避 難 訓 練 】										
教師と一緒に避難すること/指示に従って避難すること										
指導内容	教師と手を繋いだりして、適切な行動ができること		・「火事」、「地震」、「避難」などの言葉の意味を理解すること ・避難時に友達と一緒に適切に行動しようとする		・教師の指示を適切に理解し、適切な行動の必要性が分かること		「関係機関が地域の人々と協力していることが分かる」とは、火災については、消防署を中心に警察署、市役所、病院、放送局、学校、水・電気・ガスを供給している機関などが普段から施設・設備の整備や点検、訓練、広報活動などに取り組み、火災の予防に努めていることや地域の人々から消防署への通報、避難訓練の実施、地域の消防団による防災を呼びかける活動などの火災予防に協力していることなどを基に、地域の安全を守る働きについて理解すること			
単元							・災害や事故に対する施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目するとは、防災センターや備蓄倉庫、防災無線など災害に対する施設・設備の整備、救急車や消防栓など事故に対する施設・設備の設置、地域防災訓練の実施などの備えを調べる ・緊急時において、消防署や警察署などの関係機関が、緊急指令室等を中心にネットワークを活用して相互に連携するとともに、火災など緊急事態が発生した時には、状況に応じて迅速かつ確実に事態に対処していることや、近隣の消防署や警察署、市役所や病院、放送局、水・電気・ガスを供給している機関などが協力していること、消防団などの地域の人々が組織する諸団体が緊急事態に対処していることなどを調べる			
日常生活の指導（朝の会：火事の避難訓練の予告等・帰りの会：火事の避難訓練の振り返り等）										
生活単元学習（ヘルメットを被る練習・避難の練習等）										
【 防 災 】										
災害や事故について知ること/地域の施設設備について知ること										
指導内容	・危険な場所に気付くとともに、身近にある安全な場所を知ること		・土砂崩れや河川の増水、地震や火事などの災害に気付き、その場の状況をとりまわって行動できること ・地域の避難場所が分かり移動するなど、安全な場所や人々との接し方を身に付けること		・土砂崩れや河川の増水、地震や火事などの災害に気付き、その場の状況をとりまわって行動できること ・地域の避難場所が分かり移動するなど、安全な場所や人々との接し方を身に付けること		・災害や事故に対する施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目するとは、救急車や消防栓など事故に対する施設・設備の設置を調べる ・緊急時において、消防署や警察署などの関係機関が、緊急指令室等を中心にネットワークを活用して相互に連携するとともに、交通事故、犯罪など緊急事態が発生した時には、状況に応じて迅速かつ確実に事態に対処していることや、近隣の消防署や警察署、市役所や病院、放送局、水・電気・ガスを供給している機関などが協力していることを調べる			
単元	・教師と一緒に活動することで、危険な場所などがあることに気付くこと		・教師や友達と一緒に行動し、安全に生活する意識を高めること		・緊急時に適切な行動がとれるように、日頃から安全や防災についての意識を高めていくこと		・生活（町ではたらく人にあいいこう～消防署～） ※コ社会の仕組みと公共施設との関わり		・社会（地域の安全～火事から暮らしを守る[消防署見学]～）	
生活単元学習（校外歩行：消防署があることやその名称が分かること等）										
日常生活の指導（校内の非常用設備：存在や役割、普段は不用意にふれないこと等の理解）										
【 交 通 安 全 】										
信号や標識に従うこと/道路を横断すること										
指導内容	・教師と一緒に体験し、安全に通行しようとする		・自動車や自転車などに気を付ける、歩行者用の信号や踏切の警報器の意味を知るなど、安全な歩行の仕方が分かり、安全への習慣を身に付けること		・左右を確認して渡ったり、標識を理解したりするなどの指導内容を正しく身に付け、自分で気を付けながら安全に過ごせること		「関係機関が地域の人々と協力していることが分かる」とは、交通事故や犯罪などの事故や事件を防ぐことについては、警察署が中心となって、消防署、市役所、病院、放送局、地域の町内会や自治会、学校、PTAその他の関係の諸団体が協力、連携して交通安全運動や防犯活動を展開していることや、保護者による地域の巡回、「子ども110番の家」の設置など、地域の人々が事故防止や防犯に協力していることなどを基に、地域を守る働きについて理解すること			
単元							・災害や事故に対する施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目するとは、救急車や消防栓など事故に対する施設・設備の設置を調べる ・緊急時において、消防署や警察署などの関係機関が、緊急指令室等を中心にネットワークを活用して相互に連携するとともに、交通事故、犯罪など緊急事態が発生した時には、状況に応じて迅速かつ確実に事態に対処していることや、近隣の消防署や警察署、市役所や病院、放送局、水・電気・ガスを供給している機関などが協力していることを調べる			
生活単元学習（校外歩行：交通安全）										
【 危 険 防 止 】										
危険な場所について知ること/身の回りにある小さな玩具や硬貨などを決して口に入れないこと/階段や段差などに注意して歩くこと										
指導内容	・自分の身を守る適切な行動に気付く		・安全な遊び方や道具・器具の使い方を知ることなど、身近な生活の安全に関心をもつこと		・自分で気を付けながら、安全に器具等を扱う、危険な場所や状況から自分から回避するなど、適切な対応ができること		・地域の交番や駐在所の警察官が地域・トロールや道案内、住民の様々な相談を行っていることなどの身近な活動を取り上げ、それが自分や地域の安全につながっていることに気付き、安全に生活していこうとする意欲へとつなげていくこと			
単元							・生活（町ではたらく人にあいいこう～警察署～） ※コ社会の仕組みと公共施設との関わり		・社会（地域の安全～火事から暮らしを守る[警察署]～）	
生活単元学習（校外歩行：危険を回避すること）										

イ 安全	【 防 災 】 ※再掲 教師と一緒に避難すること/指示に従って避難すること			ウ 地域の安全		
	指導内容	・危険な場所に気付くとともに、身近にある安全な場所を知ること	・土砂崩れや河川の増水、地震や火事などの災害に気づき、その場の状況をとらえて行動できること ・地域の避難場所が分かり移動するなど、安全な場所や人々との接し方を身に付けること			
単元	・教師と一緒に活動することで、危険な場所などがあることに気付くこと	・教師や友達と一緒に行動し、安全に生活する意識を高める	・緊急時に適切な行動がとれるように、日頃から安全や防災についての意識を高めていくこと	生活単元学習（校外歩行：警察署があることやその名称が分かること等）		
【 避 難 訓 練 】 ※再掲						
教師と一緒に避難すること/指示に従って避難すること						
指導内容	・「火事」、「地震」、「避難」などの言葉の意味を理解すること ・避難時に友達と一緒に適切に行動しようとする	・教師の指示を適切に理解し、適切な行動の必要性が分かること				【地震から暮らしを守る】 【水害から暮らしを守る】 ※選択 「今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解する」とは、土地や気候の特徴など地域の実態と、過去に地域で起きた災害を考慮し、地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害などに対し、県や市、警察署や消防署、消防団などの関係機関や地域の人々が協力して、災害や事故を未然に防ぐ努力や備えをしていることを、具体的に調べる活動を通して理解すること ・「過去に発生した地域の自然災害や事故、関係機関の協力などに着目」するとは、例えば、県内で過去にどのような自然災害が発生したのか、どのような被害があったのか、今後想定される自然災害に対しどこでどのような備えをしているのかなどの問いを設けて、過去の災害や事故、関係機関の協力などを調べること ・「関係機関の協力などに着目」するとは、自然災害が発生した際には、県庁や市役所はもとより警察署や消防署、自衛隊、気象庁などの機関が連携を図って、防災情報の発信や避難態勢の確保などを行っていることを調べること ・市や県が単独で活動しているのではなく、連携して地域の安全を守っていることを押さえ、様々な協力の下、災害に対する備えをしていることを指導すること ・地域の実態や生徒の関心などを考慮し、取り上げる災害を一つに絞り、重点的に指導すること ・「オ我が国の地理や歴史」との関連を図り、地所や地理的環境など地域の実態と災害との関係を取り上げるなどの工夫をすること ・調べたことをもとに、それらの活動と人々の生活を関連付けて、災害から人々を守る活動について考え表現すること ・地域の安全を守る活動や動きを捉え説明したり、そこに関わる人々の思いを考えたりすること ・関係機関が連携を図ることで、災害時に迅速で的確な対応が可能であることも触れられること ・災害時に主体的な行動がとれるように、災害情報の獲得方法や、警察、消防への通報の仕方などを体験的に学ぶ活動を取り入れることで、自分と関係機関との関わり方を考えていくこと ・「イ公共施設と制度」や他教科と関連を図りながら学習を進めていくこと ・実際に自然災害によって被災した地域や被災が想定される地域を取り上げる際には、そこに居住していた人々や、今も居住している人々がいることを念頭に、個人の置かれている状況やプライブシーなどに十分配慮すること ・地域の実態に応じて、地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害などの中から取り上げ、地域や自分自身の安全を守るために自分たちができることを考えたり選択・判断したりできるようにすること ・「自分たちができることなどを考えたり選択・判断したりできる」とは、自分たちが住んでいる地域の実態に応じて具体的な災害を取り上げ、体験など具体的な活動を通して、周囲の人々が協力して安全を守っていることを学習する中で、自分自身を守るだけでなく、自分たちができる自然災害への備えを選択・判断したりすることができるよう指導すること
単元				日常生活の指導（朝の会：地震の避難訓練の予告等・帰りの会：地震の避難訓練の振り返り等）		
				生活単元学習（ヘルメットを被る練習・地震時の避難の練習等）		
【 防 災 】 ※再掲 災害や事故について知ること/地域の施設設備について知ること						
指導内容	・危険な場所に気付くとともに、身近にある安全な場所を知ること	・土砂崩れや河川の増水、地震や火事などの災害に気づき、その場の状況をとらえて行動できること ・地域の避難場所が分かり移動するなど、安全な場所や人々との接し方を身に付けること				
単元	・教師と一緒に活動することで、危険な場所などがあることに気付くこと	・教師や友達と一緒に行動し、安全に生活する意識を高めること	・緊急時に適切な行動がとれるように、日頃から安全や防災についての意識を高めていくこと	生活（町ではたらく人にあいはいこう～消防署・警察署～） ※コ社会の仕組みと公共施設との関連	社会（自然災害から暮らしを守る～地震から暮らしを守る～）	
				日常生活の指導（朝の会：地震の避難訓練の予告等・帰りの会：地震の避難訓練の振り返り等）		
				日常生活の指導（朝の会：水害の避難訓練の予告等・帰りの会：水害の避難訓練の振り返り等）		
				生活単元学習（校外歩行：消防署や警察署・避難場所の公園があることやそれらの名称が分かること等）		
				生活単元学習（ヘルメットを被る練習・地震時の避難の練習等）		
						・ウの「地域の安全」は、地域防災の観点から新設された内容 ・小学部生活科の「イ安全」と関連するもので、小学部生活科の3段階では、「(イ)安全や防災に関わる知識や技能を身に付けること」を扱うこととしており、これを受け、身の回りの安全や防災は自分だけでなく、関係機関や地域の人々との協力で成り立っていることまで広げて指導すること
				小3社会 (3)地域の安全を守る働き	小4社会 (3)自然災害から人々を守る活動	